

合理的配りょを「ズルい」と思う子へ

もしも、あなたのクラスで、なにか特別な理由があるって、みんなとちがう方法で学んだり、みんなとちがうモノが使えたり、大人がサポートしたりすることが、先生や学校からゆるされている子がいたとして……

それをあなたが「ズルい」「ひいき」「不公平」だと感じたとしても、それは正直なきもちだと思います。だって、あなただって、まだ大人の助けが必要な、子どもなのだから。

でもね、少しだけ、想像してみてください。

近視の子がメガネをかけること。

花粉症の子がマスクをつけること。

食物アレルギーのある子が、みんなとちがう給食を食べること。



たぶん、これを「ズルい」と思う人は、いないのではないかでしょうか。

みんなと一緒に不自由なく健康にすごすために、メガネも、マスクも、別の給食も、それぞれの子に必要だから、教室では「それが当たり前」になっているでしょう？

これと同じで「みんなと一緒に生きる上で、すごく困っていることがある人の、それぞれの特別な理由に合わせた、当たり前の工夫やサポート」を「合理的配りょ」といいます。

「合理的配りょ」は、日本のルール（法律）で、

病気や障がいなど、なにか特別な理由がある人には、例えば、学校や会社、駅や乗り物、お店などは、その人と相談しながら、環境を整えたり、モノを工夫したり、人のサポートをしたり…など、その人が困らないための「配りょ」を、できるだけしてください
……と決められています。もちろん、困っている子どもにも、です。

そして、もしも必要な時には、あなただって、ちゃんと「配りょ」してもらえます。

近視の人が「がんばって、遠くも見えるようになって」と言われてもむずかしいように、だれにだって「どんなにがんばっても、できること」はあります。

ですから、もし、あなたに「どんなにがんばっても、できること」があって、学校や毎日の生活ですごく困っている時には、その理由が特別なのは分からなくても、「サポートをお願いします」「助けて下さい」って、周りの大人に相談してみてくださいね。

それは、ズルでも、ひいきでも、不公平でもなくて、みんなが一緒に生きていく上で、必要で、当たり前のこと」なのですから。